

紅い月

まっかな月がでた

川は紅に染まった

さみしい、となく声がする

遠くへこだまして消えた

紅い魚がはねた

紅いしづきがあがった

私はそれをみているだけ

紅いしづきがあがった

水がほおをぬらした

川は流れている

生命のこどうと共に

私はそこでたっているだけ

裸足のまま立ち上がった

紅い川をみつめた

川の中は黒く

足がとけてしまったようだ

風がふいていた

さざ波をたてた

もうなにもきこえない

ただ月の泣く声がするだけ

私はそれをきいているだけ

丘でおどる花は言う

紅い月よ

けがをしてないているのね

カワイソウね、と

土はこどうを奏で

月はただ泣いていた

ああ私は月になりたい

誰もいない

しずかな

しずかな

しずかな

夜

一瞬の閃光が走った

はねた

ゆれた

さわいだ

とんだ

きえた

そこには一層濃い紅があつた

風がふいていた

足をくすぐった

まっかな月が出ていた

涙をながしていた

月はないていた

遠くで誰かがなっていた

足元でかえるがわらっていた